優賞

外来種ナガミヒナゲシは阿蘇に侵入するのか

熊本市立湖東中学校　２年　鍬田　梨衣奈

１　研究の目的

５月の初め頃、道路にオレンジ色の花がたくさん咲いている。その花は、「ナガミヒナゲシ」という外来種で、もとはヨーロッパに生育する植物だった。ナガミヒナゲシは、根や葉から周りの植物の生育をじゃまする物質を出しており、もし、阿蘇に侵入すると、もともと生育している植物が絶滅してしまうかもしれない。そこで、ナガミヒナゲシが生えている場所の特徴などから、阿蘇に侵入する危険性があるかどうかを調べた。

２　研究の方法と結果（詳細は割愛）

(1) 現在の分布状況を調査する。

国道５７号線は、国道３号線との交差点から大津町まで中央分離帯に生育していた。大津町から先には見られなかった。第２空港線は、健軍からテクノリサーチパーク入口まで中央分離帯と歩道横の花壇に生育していた。俵山線は、確認できなかった。

(2) 種子による拡散の程度を調査する。

種子の大きさは､0.6～0.7㎜だった｡また､１つの花にできる種子の数は､多いもので約2,500個だった。果実は、上を向いていて茎についており、種子は風で拡散されやすい。さらに、種子には網目模様があり、タイヤなどに引っ掛かりやすく拡散しやすいつくりになっていた。

(3) 生育環境の特徴を比較する。

他の植物がまばらな場所や隙間に生育していた。他の植物が密集している場所には生育していなかった。また、ササが生えている場所やイネ科の植物が密生している場所には生育していなかった。アスファルトの隙間や砂利の駐車場にも生育していた。

(4) 土の性質を調査する。

生育している場所の３か所とも異なるｐＨを示した。また、深さによって、ｐＨが異なる場所があった。生育していない草原の３か所でも異なるｐＨを示した。月まわり公園と草千里付近の草原の土は酸性だった。

３　研究の考察

ナガミヒナゲシは、現在、熊本市内から大津市内まで広く分布していること、種子は小さく、その数はとても多いうえに、非常に拡散しやすいつくりになっていること、さらに、阿蘇の土と現在生育している場所の土のｐＨに、大きな違いはないことから、分布範囲は、数年後には阿蘇周辺まで広がっていると考えられる。ただし、阿蘇の草原は、イネ科の植物が密集していて、ナガミヒナゲシが生育していない環境と同じであり、また、芽が出て花が咲く前に、野焼きが行われるため、阿蘇の草原の中では、ナガミヒナゲシは生育しにくいと考えられる。以上から、阿蘇でも、植物の密集が少ない市街地や道路沿いへの侵入の可能性は、高いと考えられる。